

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371501277		
法人名	(有)スリーハンズ		
事業所名	グループホームなでしこ猪子石原 1階		
所在地	名古屋市名東区猪子石原2-717		
自己評価作成日	2020年10月26日	評価結果市町村受理日	令和3年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/237/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2371501277-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・人生の先輩として、人生や生き方を尊重し、敬語や自己決定を基本として一方的な援助ではなく個人が主体的に暮らせるよう、柔軟で細やかな配慮を欠かさない事で自立に繋げている。
 ・ご家族との良好な関係が継続できるように、小さな変化も伝えて情報を共有し、ご家族の意向を確認してケアの方向性を相談している。
 ・日常的に家事や手作業、脳トレプリントを促し『やる事がある』生活作りを方針としている。
 ・閑静な住宅街に立地し、リビングは南側に面し日当たりがよく、広い庭にも自由に入出りできる明るく開放的な空間である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、利用者の尊厳に配慮した内容の理念を掲げ、利用者一人ひとりに合わせた支援が行われている。利用者が日常生活を過ごす場所や食べたい物等、職員間で検討を重ねながら、利用者がホームで快適に過ごしてもらえるような支援が検討されている。身体状態が重い方もホームでの生活を継続しており、職員の支援を受けながら、住み慣れたホームで過ごすことができるような取り組みが行われている。地域の方との交流については、今年度は地域の行事が中止になる等の影響が出ているが、例年は、地域の民生委員の方が主体で行われている食事会に参加する等の交流が行われている。また、協力医療機関との定期的及び随時の医療面での連携が行われており、医師、看護師との情報交換を行いながら、利用者の健康状態に合わせた柔軟な支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月のスタッフ会議の冒頭で理念の唱和を行っている。理念について職員が考え、話し合う機会を定期的に設ける事で、理念の深い理解と共有をして、実践に繋げている。	ホーム開設時からの理念を職員の支援の基本に考えながら、毎月の職員会議に合わせて唱和する取り組みを継続している。また、理念をホーム内に掲示し、職員が日常的に理念を意識する働きかけも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の為、民生委員主催の食事会や当事業所が年2回開催していた祭り等中止となり、近隣の方との交流の機会が減ってしまったが、散歩時に出会う近隣の方との挨拶を交す事で地域との関係を繋げている。	感染症問題があることで、地域の方との交流が困難になっているが、例年は、地域で行われている運動会や食事会等を通じた交流が行われている。また、ホームでもボランティアの方を通じた交流の機会がつけられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	いきいき支援センター主催の”認知症の家族会”で講師として、認知症の人の現状や関わり方、支援方法等を話し、知ってもらう機会があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍により、運営推進会議が実施できず、民生委員・家族・地域包括支援センターの方々には当ホームの現状等を書面にて定期的に報告している。	今年度の会議は、書面による実施であるが、会議を開催する際には、他のグループホームの方の参加が得られる等、会議を通じて助言等の機会にもつながっている。また、名称を「ぼっぼ会」と親しみやすくする工夫も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	対応に苦慮した場合や適正な判断に迷った場合等に地域包括支援センターに相談をして意見を求めたり、指導を受けている。	市担当部署との情報交換等については、法人代表者を通じても行われているが、ホームからも研修会や連絡会等を通じた交流の機会がつけられている。また、認知症サポーター養成講座に講師として協力する取り組みも行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年に2回、『身体拘束』について職員が講師となり、内部研修を実施している。意見交換等の話し合いをする事で、理解を深めている。玄関は夜間以外は施錠せず、抑圧感のないケアを検討し、実践している。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、出入りに施錠を行わず、利用者の状況に合わせた対応が行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討委員会の実施や職員研修を通じた振り返りが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部研修等で、『虐待』について学ぶ機会を持ち職員全員に徹底している。他スタッフのケアに違和感を感じた時に気軽に話し合えるような土壌を作る事で、虐待に至らないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	一部のスタッフは外部研修を受け一定の理解はあるが、理解度の差が大きい。会議等で話題に上げるが突き詰めて考える機会が少なく充分とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	本契約前の10日間のお試し入居期間を設けている。コロナ禍により、現在は家族に宿泊をしていただけないが、疑問や不安の解消には十分に時間をかけて丁寧に説明をして、理解や納得を得た上で本契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の来訪時には積極的にコミュニケーションを取り信頼関係を築く事で、気軽に意見や要望を話していただけるように努めている。苦情にも迅速に対応している。玄関には意見箱を設置しているが使用されている事は殆どない。	今年度については、家族会の取り組みは困難であるが、例年は、多くの家族の参加が得られており、家族との交流が行われている。また、定期的なホーム便りの他にも、今年度については、オンライン面会やLINEを通じた情報提供が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に2回、代表者に意見提案書を提出する機会がある他、希望に応じて面談も随時可能。要望や意見に対しては代表から返答があり、必要な内容については反映している。	毎月のユニット会議やユニット合同の会議が行われており、管理者が把握した職員からの要望等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、職員から法人代表者に対しても意見等を墮してもらい機会をつくり、職員の意見等の反映につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている。	年2回の人事考課では他者評価の結果が賞与に反映されており、個々への努力ややりがいの促しとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年2回の身体介護テスト後は個別に振り返りと指導を行い職員の技術の向上に努めている。また認知症実践者研修受講の確保、その他の外部研修はコロナ禍の為控自粛しているが、資格取得をめざす職員は増加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	愛知県グループホーム協議会に入会し研修等に参加する機会を設けているが、今年はコロナ禍により、研修参加を自粛している。他施設の管理者との相互訪問も自粛中の為、書面で現状報告し合う等でサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に本人の情報を家族からの聞き取りや書類で提出してもらい、それを踏まえて丁寧に関わりながら安心して生活できる雰囲気作りに努め、不安の軽減図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初期の見学や面談時には入居当初の環境変化のリスクの説明も含め、本人や家族と十分に話す時間を設けて、想定される事態や課題の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	可能であればお試し入居前に当ホームを見学してもらい、その様子を見てサービス導入時のスムーズな支援に繋げている。また、入居前のサービス利用があれば情報を収集し必要な支援を見極めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として尊敬の意をもって接する事を忘れず、その上で入居者様の慣れ親しんだ活動を継続する機会を作り、自主性をもって暮らせる環境作りや、様々な感情を共有できる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍により、家族参加のイベントは中止となり、面会は距離をとって短時間としている。その為、家族の来訪時には、ホームでの様子や心温まるやりとり等を詳細に書面で報告し、不安や疑問等にはいつでも対応し、支援の方向性を一緒に考えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍により、家族との外食や帰宅、墓参り等の外出は自粛していただいている。電話や短時間の距離をとった面会をしていたり、事で馴染みの方との関係性の継続に努めている。	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームに訪問したり、手紙をもらう等、馴染みの関係につながる機会が得られている。また、例年は、家族の協力を得た行きつけの場所への外出も行われており、家族との交流を継続する機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	身体状況や理解度、性格等を正確に把握し共同作業等を通じて、気持ちよく関わり合えるよう、その関わりを継続してもらえるようにしている。どなたにも必ず良好な関係の仲間が存在があり、孤立せず支え合ってみえる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も家族が定期的にボランティアで包丁研ぎに来訪されたり、贈答品が届く等、少数ではあるが、関係が継続している家族もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生き方や考え方を尊重し、会話や表情から汲み取る習慣付けや、カンファレンスでは意見交換による情報共有を行い、日々の言動を深く掘り下げる事で可能な限り本人の想いの把握に努めている。	職員間で利用者に関する「ちょっといい話」を出してもらい取り組みを継続しており、利用者に関する意向等の把握につなげている。また、毎月のカンファレンスを行いながら、利用者の意向等を検討し、日常の支援に反映する取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時には各入居者の習慣や生活歴等を家族やケアマネ等から情報収集している。また本人との日々のさりげない会話の中から知り得た情報も職員間で共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の生活の様子を記載する記録書類で把握する他、職員が各入居者と関わり、知り得た情報や有する力をカンファレンスや日々の情報交換で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	コロナ禍により、現在ケアカンファレンスに家族の参加はしていただけないが、来訪時や電話で日々のケアでの気付きや体調変化等を報告し、意見や要望を伺い、課題について協議している。医療関係者にも情報を共有し、ケアプラン作成に活かしている。	介護計画については、3か月での見直しが行われており、担当職員も参加しながらモニタリングの実施が行われている。日常的にも利用者一人ひとりに合わせた記録用紙を用意しており、利用者に関する変化等の把握につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の生活記録は個々のケアプランに沿った書式となっており、情報共有の重要資料となっている。毎月のケアカンファレンス時には各スタッフが事前にモニタリング書類を提出し、ケアの検証・再考をするほか、常に職員間で情報共有できるノートを作り、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個別ケアを基本としている為、その時々々の要望に臨機応変に対応できるようにしている。本人の状態を検証した上で家族から了承を得て、単独で外出される方もいるが、現在はコロナ禍により、自粛していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍により、外出や外食は自粛している為、近隣の散歩やドライブで季節の花を楽しむ機会を増やす事に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にかかりつけ医の継続か、当ホームが紹介する医師に変更するかを選んで頂いている。家族の依頼や希望により往診時の同席も自由だが、現在はコロナ禍で同席は受け入れていない。往診医以外で受診される場合は通院時に書面で情報を提供している。	ホームでは、近隣にある協力医療機関と定期的及び随時の医療面での連携が行われており、利用者の健康状態に合わせた柔軟な対応が行われている。訪問看護との連携も行われており、医師との連携や医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の定期訪問の訪問看護ステーションは24時間体制でサポートを受けられる。、体調変化時には状況に合わせて医師へ情報を伝え、詳細を定期的に報告している。ケアの方法や注意点等も指示を受ける等適切な支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には心身情報が時系列で分かる往診ファイルや介護サマリーで情報を提供している。入院先のケースワーカーや担当看護師との情報交換で早期退院を目指し、退院後は状態に合わせて適切な対応が出来るように備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時には当ホームの看取りに対する方針を書面で提示すると共に、一年毎に事前指示書の更新を依頼している。重度化した場合は家族がかかりつけ医と共に話し合う場を設け、希望を確認して支援方針を決めている。合意した内容は書面で明示し、状態変化に応じてその都度確認している。	ホームでは、利用者の看取り支援が行われており、協力医との連携や家族との話し合いを重ねながら、複数の方がホームで最期を迎える支援が行われている。家族とは、ホームで可能な内容の確認を行いながら、意向に合わせた対応に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員の中で普通救命講習を受講者が数名いる。内部研修やスタッフ会議で定期的な内容を振り返り、知識の共有と実践力を付ける事で、いざという時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月、火災・地震・公園へ避難、夜間想定のあるものの避難訓練を実施している。	継続した取り組みとして、毎月の避難訓練が行われており、夜間想定のあるものの確認等、職員間で様々な状況を想定した取り組みが行われている。訓練の際には、職員間で持ち回りで担当しており、全員の周知につなげている。また、水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	今年度については、感染症問題があることで、近隣の方との交流が困難になっている。感染症問題の状況もみながら、災害に関する近隣の方との継続的な交流に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩として敬意をもって接し、決して指導的にならないような対応を常に注意している。自尊心を傷つけないような言い方や、プライバシーが守られるよう細やかな配慮とその人に合わせた声かけを意識して対応している。	職員は、ホームの基本理念でもある利用者の尊厳ある生活を大切にしたい対応に心掛けており、定期的に理念を振り返る機会がつけられている。また、職員間で利用者の「ちょっといい話」を話し合う取り組みも行い、利用者への対応にもつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の関わりの中で信頼関係の構築を図り、思いの表出や自己決定ができる環境づくりに努めている。小さな事でも職員が決めつけず、常に本人が決めるように声かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の大まかなタイムテーブルはあるが、出来る限りご本人の希望に添えるように、日常業務を工夫して本人主体の暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪型や洋服の組み合わせに拘りのある方、ネックレスを付ける方等その人らしさが失われないように働きかけ、それを継続していただいている。違和感があればさり気ない声かけで、その人らしさが引き出せるような着こなし等を提案させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生日には好物の献立にしたり、日常的に旬の食材を使用している。食材の下処理や調理、味付け、盛り付け等、その方に合わせた内容で依頼をしている。机拭きや食器拭き等と一緒に会話しながら楽しく行っている。	メニューについては、担当職員が利用者の好みや嗜好等にも合わせながら考えている。利用者も調理や片付け等に参加し、おやつ作りや行事に合わせた食事が行われている。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事は個々の習慣やその時の体調に合わせてながらも過不足のないよう提供し、バランスのとれた栄養と水分量の確保に努めている。食事形態も咀嚼や嚥下の状態に合わせて対応すると共に、必要に応じた見守りや介助をして、必要量が飲食できるように働きかけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	入居者の状態に応じた口腔ケアを実施している。週4日の義歯洗浄消毒を行い、定期的な歯科往診時には、医師へ情報提供を行った上で、指導を元にしたケアで清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄記録からその方の排泄パターンに合わせたトイレ誘導をしている。失敗を防ぐ為に、尿及び便意時のサインを確実にキャッチできる様にその時の言動や表情の情報共有を行い、ケアに活かしている。失禁量に合わせて多種類のパッド等を使い分けて自立支援に努めている。	利用者全員の排泄記録を残し、日常的な申し送りや毎月のカンファレンス等を通じて、利用者に合わせた排泄支援が行われている。トイレでの排泄を基本に考えながら、医師、看護師との排泄に関する医療面での連携も行い、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取の少ない方には好みの飲み物の提供で摂取量を増やし、適度な運動等で自然な排便と便秘予防に努めている。また必要に応じて医療者の指導の下、便軟化剤の調整も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴剤の使用や希望の時間や方法で入浴してもらう等、個々の状態に合わせて楽しめるように努めている。時には断りやすい声かけをしたり、強制感のない雰囲気でも気持ちよく入っていただいている。	毎日の入浴の準備を行い、利用者が週2～3回入浴ができるように支援が行われているが、利用者の中には毎日入浴する等、意向に合わせた支援も行われている。また、身体状態に合わせた職員複数での対応も行い、浴槽に入ってもらう支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の体調や状態に応じて日中に臥床を促しているが、30分を目処に声かけし過度の臥床による夜間の不眠を招かないように注意している。夜間に不眠傾向の方には昼間に散歩や脳の活性化を促して、薬に頼らない自然な安眠を目指している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人の往診ファイルに最新の薬の説明書を添付して処方薬が一目で分かるようにしている。処方薬の変更は申し送りノートに記入している。ケアカンファレンス時には入居者担当が、服用中の薬の説明をする事で状態の把握に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事作りや洗濯畳み等の家事は全ての方に役割感を持ってしてもらえよう、工夫して依頼している。個々の特性を生かし、歌、折り紙、写字、計算ドリル、裁縫等のアクティビティを楽しめるような環境作りをしている。居室での自由な間食や毎日の散歩を楽しむとされる方もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	毎日の散歩は殆どの方が行かれている。季節ごとに花の名所をドライブしている。コロナ禍の為、外食や家族との外出は自粛していただいている。	感染症問題があることで、利用者の外出が困難になっているが、状況等をみながらホームの近隣を散歩する等の機会がつけられている。例年は、年間を通じた外出行事をはじめ、地域で定期的に行われている食事会に参加する等の取り組みが行われている。	近隣への散歩等の取り組みが行われているが、感染症問題があることで利用者の外出が少なくなっている状況もある。感染症問題が落ち着いた際には、利用者の外出行事が再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が出来る方には家族の理解が得られれば、小遣い程度を自己管理して、買物も自由意思で行かれているが、コロナ禍により、買物は自粛していただいております、職員が代行で頼まれたものを買物している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	一部の方は自己所有の携帯や当ホームの電話から家族や知人へ自由にかけているが、家族や親族から手紙が来ても返信する事が難しい方が殆どである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	空調や採光の調整は小まめに行い、快適に過ごして頂けるよう心掛けている。トイレは車いす用に広い箇所もある。また、季節の花を飾ったり、行事の写真を貼る等、居心地良く過ごしていただけるよう配慮している。コロナ禍の為、小窓は開放したままで、大窓は1時間に1回以上の換気をしている。	ホーム内は広めの設計が行われており、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような生活環境がつけられている。キッチンのかいかにカウンターがあり、利用者の中にはカウンターで一人で過ごしている方もいる。また、利用者の作品等の掲示も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング内にソファーやカウンター席を設置しており、庭へもウッドデッキから出入りできる。個室への出入りも自由にでき、思い思いの空間で過ごされている。席替えをする事で新しい関係が生まれる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時から出来るだけなじみのものを持ち込んでいただき、前住居からの継続した暮らしを支援している。仏壇を置かれている方、自分で作った刺繍の作品、家族からの贈り物や写真を飾られている方もみえ、好みのものに囲まれて暮らせるよう工夫している。	居室には、利用者の入居前から使用している家具類や好みの物等を持ち込む等、利用者や家族の意向に合わせた居室づくりが行われている。また、利用者の中には、ベッド以外で生活する方もあり、利用者の生活習慣や身体状態等にも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室、トイレは分かり易いように大きく名前を表記してある。全面バリアフリーで、安全且つ自立を妨げない環境作りに努めている。どの位置からも入居者が分かり易い間取りとなっている。日めくりカレンダーの活用をしている。		